

木造耐震ネットワーク知多 第38回研修会

耐震改修もやもや解消講座 part II
～ 続 生 Q&A やっちゃいます ～

日 時 : 2016年 6月14日(火) 17:30～19:30
場 所 : 半田市福祉文化会館(雁宿ホール) 2階 視聴覚室
講 師 : 花井 勉 氏 (株)えびす建築研究所 代表

Q	A
熊本地震で、S56年6月以降とH12年以降の被害について (MK)	講演の中で報告あり。 新築物件でも無傷では無かった。基準法を上回る地震であった。 その中でも被害を受けていない建物も少なくない。耐震壁の配置、金物の施工方法など、少しずつ何かが狂うことで、被害につながっている。 詳しくは、調査報告が公的に出るだろう。
木造2階建アパートの外部鉄骨廊下と階段の扱いはどうすべきか (IM)	外部の鉄骨フレームは木造本体に比べて柔らかいので、廊下、階段等の荷重は本体で受け持つと考えたほうが良い。
葺き土の厚さによって建物の負担は変わるが、同じで診断してよいか (IM)	重さが変わる場合は、必要耐力をきちっと計算して変えるべきである。 A i 分布を計算して算出する。
伝統構法で基礎の改修なしで耐力を上げる方法はあるか (YI)	柱の強度を上げる一抱き柱など。 接合部の強度を上げる 足固めも有効な方法
伝統構法で足固めを施工した場合の効果は数値で表せるか (YI)	基礎ランクⅢから足固めを施工することで基礎ランクⅡで算定できる。
柱に間柱をボンド付けした場合、耐力壁の勝ち負けは無くなるのではないか (YH)	間柱の強度でなく、合板の釘位置の違いなので、間柱をボンド付けしても変わらない。
柱、土台、梁等の面が違う場合、木材をボンド付けして面をそろえた場合、低減は必要か。 (MK)	木材同士、接着剤でしっかり貼り付ければ、低減は必要ない。